

平成 28 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	28K07	氏名	相場 奨太
研究主題	社会科新聞の評価におけるルーブリックの開発とその信頼性の検討		
派遣先	玉川大学教職大学院	担当教官	谷 和樹
所属校	小平市立小平第五小学校	校長	村松 守夫

キーワード： ルーブリック 小学校社会科 新聞づくり活動

1 研究の背景

学校現場において「指導と評価の一体化」が求められている。梶田(1994)は、思考力・判断力・表現力について「確かな学力」の冰山モデルで「見えにくい学力」と述べているが、教師はその「見えにくい学力」を、様々な工夫を凝らしながら評価を行っている。次期学習指導要領改訂に向けて、主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」)の視点からの学習過程の改善を提言されており、各教科においてより一層「思考力・判断力・表現力」の育成が求められている(中央教育審議会 2016)。子供たちに確かな学力を身に付けさせるための適切且つより効率的な学習評価の実施が求められる。

松下・石井(2016)は「アクティブ・ラーニングをどう評価するかについて、よく取り上げられるのはルーブリックを用いたパフォーマンス評価やポートフォリオ評価である」と述べている。

今回着目したパフォーマンス課題の一つである新聞づくりにおいて、鈴木(2012)は「小学校では社会科等の授業のまとめにおいて、新聞づくりの活動を行うことが多いが、書き方指導はあまりされておらず、評価もされずそのまま掲示物になっているケースが多い」ことを指摘している。先行研究では、新聞の書き方や作り方のコツやポイントの例示のようなものは多くあった。作成した新聞を評価するルーブリックに関する研究は、稲垣ほか(2013)が開発した「あつまと+つくつたー情報活用を助ける Web 教材ー」を用いて、田中(2013)が歴史新聞づくりを行った実践事例があるが、その効果や成果、課題についての詳細は明らかになっていない。

このような現状を踏まえ、ルーブリックを用いた評価方法の効果を明らかにする必要があると考えた。

2 研究の方法

実践は、東京都内X小学校第5学年3クラス 92名と、東京都内Y小学校第5学年1クラス 33名の計 125名を対象とした。実態調査と先行研究を基にルーブリックを開発し、小学校第5学年の社会科「米

づくりの盛んな地域」「水産業が盛んな地域」「自動車づくりにはげむ人々」(単元名は教育出版より)の3単元において新聞づくりをし、ルーブリックを用いて自己評価、相互評価、教員による評価を行なった。

本研究は2016年7月上旬から12月中旬にかけて実践を行った。

3 ルーブリックの開発

「観点」と「記述語」を考える際、稲垣ほか(2013)が開発した「あつまと+つくつたー情報活用を助ける Web 教材ー」新聞用ルーブリックと実態調査を参考に、児童が作成した新聞を評価するための4観点3尺度のルーブリックを開発した。

4 結果と考察

著者と学級担任2名の計3名で、ルーブリックを用いて完成した新聞を単元毎にそれぞれが評価した。

その評価結果について、Kendallの一致係数(κ)を算出した。「思考・判断・表現」の観点では、1回目 $\kappa=0.59$ 、2回目 $\kappa=0.56$ であったが、3回目では $\kappa=0.82$ まで向上した。また、「図表・イラスト」の観点では、1回目 $\kappa=0.60$ 、2回目 $\kappa=0.62$ だったが、3回目は $\kappa=1.00$ と、評価者3名の評価が全て一致した。1回目と2回目の評価後にお互いの評価の違いについて検討し、ルーブリックの抽象的な表現はより具体的に、数値化できる記述は数値化した。そして3回目の実践の前に、表1のように加除修正したルーブリックを児童に配布し3回目の実践をした。

また評価の際、検討したことをまとめた資料(表2 評価補助資料)を用いて評価を行った。

これらの結果から、ルーブリックをより精緻にする補助資料が有効であったことが示唆された。「見出し」の観点に関しては、竹泉(2012)の考えを参考に「10文字程度で、伝えたい情報の要素を書くこと」をB基準とした。さらにポイントとして「問いかけたり呼びかけたりする」、「数字を入れて具体的に

書く」、「キレのよさ」、「気持ちを伝える」の視点を与え、読み手が読みたくなる工夫を行うことができたものをA基準とした。しかし、「読みたくなる見出し」は人によって様々であり、様々な手だてを行ったが信頼性が十分と判断される値には達しなかった。

5 今後の展望

今後の課題として、社会科新聞の評価におけるルーブリックが更に効果的なツールになるように適切且つ一層の簡素化をすること、開発したルーブリックのフォーマットを用いて、他学年あるいは別の単元で新聞づくりを行う際にも、同様の効果が得られるかどうかについても検討する必要があることが挙げられる。

表1 加除修正したルーブリック(単元名「自動車づくりにはげむ人々」)

【問い】なぜ、質の高い自動車を効率よく生産することができるのか。			
	A (3点)	B (2点)	C (1点)
思考判断表現	【問い】について、工場で働く人たちはどのような工夫や努力をしているのか、根拠(資料等)や理由を示して記事をかき、社説の中に、思考したことを書いている。(具体的に3文以上)	【問い】について、工場で働く人たちはどのような工夫や努力をしているのか、根拠(資料等)や理由を示して記事をかき、社説の中に、思考したことを書いている。(具体的に2文)	【問い】について、工場で働く人たちはどのような工夫や努力をしているのか、根拠(資料等)や理由を示して記事をかいていない。また、社説の中に思考したことを書いていない。(1文or0)
図表イラスト	内容にあった図表やイラストを1つの記事に対して1つ以上描いている。(3/3)	内容にあった図表やイラストを描いている。(2/3)	文字が多く、図表やイラストを描いていない。(1/3 or 0)
見出し	10文字程度で、伝えたい情報の要素を書いていて、読みたくなる工夫(新聞づくりのテクニック参照)をしている。(3/3)	10文字程度で、伝えたい情報の要素を書いている。(2/3)	10文字程度で、伝えたい情報の要素を書いていない。(1/3 or 0)
見た目	文字をていねいに書き、見やすい色でていねいに色を塗り仕上げている。	文字をていねいに書き、色を塗って仕上げている。	ていねいさが足りない。

表2 評価補助資料

項目	解説	具体的な評価基準
思考判断表現	【問い】について、工場で働く人たちはどのような工夫や努力をしているのか、根拠(資料等)や理由を示して記事を3つ書いている。また、社説の中に思考したことを具体的に3文以上書いている。…A	記事3つ、社説3文=A 記事1つ、社説1文=C 記事3つ、社説2文=B 記事3つ、社説0文=C 記事2つ、社説3文=B 記事2つ、社説0文=C 記事3つ、社説1文=B 記事1つ、社説0文=C 記事1つ、社説3文=B 記事0つ、社説3文=C 記事2つ、社説2文=B 記事0つ、社説2文=C 記事2つ、社説1文=C 記事0つ、社説1文=C 記事1つ、社説2文=C 6点…A 5、4点…B 3点以下…C
図表イラスト	・1つの記事に対して1つ以上描かれていればOK 見出しの余白に描いているものもOK ※ただし、記事と全く関係のないものを描いていたら減点とする。	・記事3つに対して、3つ描いていればA ・記事3つに対して、2つ描いていればB ・記事3つに対して、1 or 0の場合はC
見出し	・文章のようなものはC ・10文字程度で書かれていればB ・その中で、「読みたくなる工夫」を参照に工夫して書いているものはA	・3つの記事の見出しが全てAでA ・3つの記事の見出しがC3つ又はC2つでC ・残りはB
見た目	・文字をていねいに書くことが大前提！ ・「色を塗る」とは、見出しや図表、イラストなどに色を塗ってあることをいう。	・文字も色塗りもていねいに仕上げている…A ・文字でいねい、色塗り雑…B ・文字若干でいねいさに欠けるが、色塗りはていねい…B ・文字も色塗りも両方雑…C

